

# 馬獣医のよもやま話 ⑱ 池田寛樹獣医師

## 当歳の肢軸異常について



静内診療所 池田 寛樹  
新ひだか町静内出身  
平成22年3月 酪農学園大学卒業  
平成22年4月 日高軽種馬農業協同組合入社  
静内診療所勤務 現在に至る

4月に入り、出産や種付けなどで忙しい日々をお過ごしでしょうか。時期的に当歳の姿を見かけることも多くなってきましたので、今回は当歳の肢軸異常についてお話させていただきたいと思います。すでに知っている方が多いかもしれませんが、どうぞ少しだけお付き合いください。

当歳の肢軸異常とは、出生時や出生後に見られる肢の内側や外側への変形のことで、変形の向きによって、外反や内反などと呼ばれます。腕節や飛節、球節で起こります。よく認められるのは、前肢の腕節における外反で、X脚と呼ばれるタイプです。

肢軸異常に対する治療としては、舎飼いによる運動制限などの保存療法や早期の積極的な削蹄療法、蹄の充填剤を用いた矯正などがあり、これらによって改善するケースが多く見られますが、完治しないような重度の場合、肢に対する異常な体重の負荷が骨の成長を妨害し、肢軸異常はよりひどくなってしまいます。そうならないために、重度の場合は外科的処置が必要となります。

現在静内診療所では、肢軸異常に対してシングルスクリュー法という手術を主に行っています。シングルスクリュー法とは、骨が成長する部位である成長板というところに1本のスクリューを挿入する方法です。挿入したスクリューは肢軸が矯正されれば抜き取ります。手術時間は比較的短く、跡もほとんど目立たない手術となります。

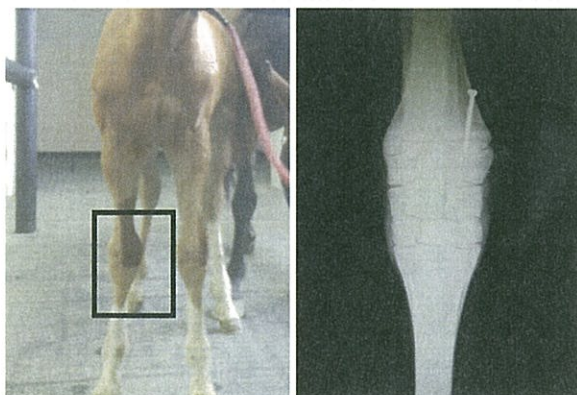
実際に手術が行われる馬のほとんどは3週～2ヶ月齢であり、早期に実施することで、より効果的な肢軸の矯正が期待できます。逆に言うと、実施する

時期が遅くなればそれだけ矯正が難しくなり、スクリーを入れていた時期も長くなってしまいます。

成長とともに自然な矯正が期待できるのか、装蹄療法を行って経過を観察するのか、それとも外科的処置が必要なのか、という判断が必要になります。ですので、産まれてきた時に肢軸異常が見られた場合、少なくとも1ヶ月齢以内には装蹄師や獣医師に相談してみましょう。適切な時期に適切な処置を施すことが肢軸を矯正する上で大切となります。もし、手術適応の時期が遅くなってしまった場合でも、改善の余地があるかどうかを獣医師に相談してみてください。以下に実際の症例を紹介させてもらい終わりとさせていただきます。どうもありがとうございます。



実際に手術を行った症例を紹介します。1ヶ月齢で両腕節における外反(X脚)を認め、特に右前肢は重度の外反でした。レントゲン写真の○で示した部分にスクリューを挿入することで内側の骨の成長を抑え、外側を成長させることで肢軸を矯正します。



同じ馬の約2ヶ月後です。外見上とレントゲン上で十分に肢軸が矯正できたことが確認できたので、スクリューを抜き取りました。早期に手術を行うことでより効果的に肢軸を矯正することができます。